

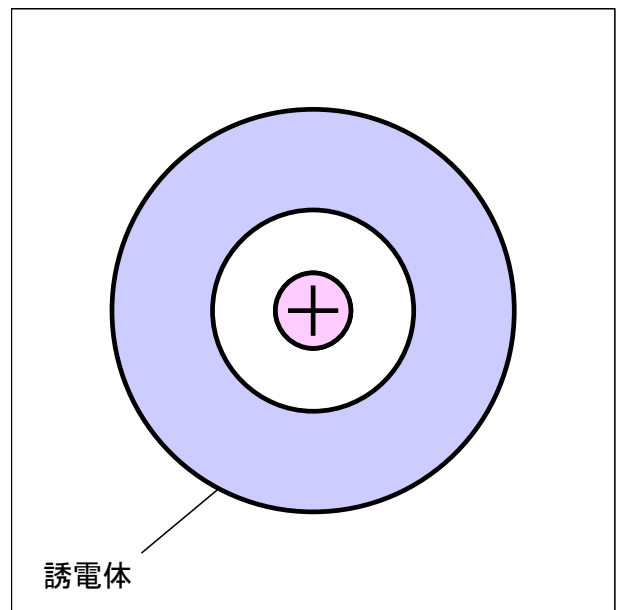
電磁場 今日の One point

第7回授業

- 分極電荷を含んだガウスの法則, $\epsilon_0 \text{div} \mathbf{E} = \rho + \rho_{\text{pol}}$ を, 上の関係を使えば ρ_{pol} を含まない形で表せる. それは $\epsilon_0 \text{div} \mathbf{E} = \rho + \underline{\hspace{2cm}}$ という形. これを, $\text{div} \mathbf{E}$ で括れば, $\epsilon_0 (1 + \chi_e) \text{div} \mathbf{E} = \rho$ と表すことができる.
- $\epsilon_0 (1 + \chi_e)$ なる量は, 真空の誘電率と同じ次元で, 誘電体中での $\text{div} \mathbf{E}$ と ρ の比例定数である. ならばこれを「物質の誘電率」と定義し, 記号 ϵ で表そう. つまり,

$$\epsilon = \underline{\hspace{2cm}}.$$

- ここで, $\epsilon \mathbf{E} = \mathbf{D}$ なる物理量を再び「電束密度」と定義する. 結局, 微分形のガウスの法則は誘電体があっても $\text{div} \mathbf{D} = \rho$ と書ける.
- 電束密度のガウスの法則を積分形で書くと $\oint \mathbf{D} \cdot d\mathbf{s} = Q_{\text{enc}}$ となる.
- 電気力線を \mathbf{E} を結んだ線, 電束線を \mathbf{D} を結んだ線とする. $\epsilon_r = 2$ として, 右図に電気力線と電束線の様子を描画せよ.



- ϵ_0 を ϵ と置き換えた形のガウスの法則はやはり基本法則であるので, 今まで導出してきた公式はそのまま使える. 例えばポアソンの方程式: $\nabla^2 \phi = -\rho / \epsilon$
- ※(ϵ がスカラ定数の範囲でのみ適用可能)
- 極板面積 S , 極板間距離 d の平行平板コンデンサーの容量: $C = \epsilon S / d$
- 単位体積あたり電場が蓄えるエネルギー: $w = \frac{1}{2} \epsilon E^2$
- 誘電率の異なる界面の両側で電場と電束密度はそれぞれ, 電場は E_{\parallel} 成分が保存される. 電束密度は D_{\perp} 成分が保存される.